

☆☆ポイント☆☆

◆◆◆特集記事◆◆◆（阪神高速道路株式会社）

民営化後のお客様サービス向上への取組みについて

阪神高速道路㈱において、民営化以後「安全・安心・快適なネットワークを通じてお客様の満足を実現し、関西の暮らしや経済の発展に貢献する」ことを目指す「先進の道路サービスへ」という企業理念のもと、進められているお客様サービスの向上に向けた各種の取組みについてご紹介いたします。

◆◆◆道路占用 Q&A★◆◆◆（道路局路政課）

今年三月に発出された標記の通達について、Q&A方式で内容を紹介する。

◆◆◆平成18年度道路管理瑕疵実態調査◆◆◆（道路局交通管理課）

道路管理瑕疵実態調査は、毎年、全国の各道路管理者にご協力いただき、道路の種別毎の管理瑕疵実態及び道路管理関係訴訟の判決等を集計・把握しているものである。本稿においては、平成18年度道路管理瑕疵実態調査の結果の概要とポイントを紹介し、今後の道路管理に当たっての留意点等の検討に資し、もって、各道路の構造の保全又は交通の危険防止に資することを目的としている。

◆◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆◆>

●四国地方整備局における事前通行規制区間に関する取組みについて（四国地方整備局）

四国は、海、山、川と自然に恵まれた地方です。しかし、台風の襲来や梅雨時の豪雨により、災害や事前通行規制が頻発しています。四国地方整備局では通行規制の影響を緩和するための施策として

- ・事前通行区間の分割
- ・インターネットを通じた情報提供
- ・メールマガジン等による情報提供

の取組みについて紹介するものです。

●福島県の取組み◆◇◆（福島県土木部）

===福島県の概要===

福島県は、南北に縦断する阿武隈高地・奥羽山脈によって、気候・風土の異なる、浜通、中通り、会津の3地方に区分されています。福島県の概要では、県土面積などの紹介をしています。

===地域住民、NPO 法人等との協同作業===

うつくしまの道・サポート制度は、地域住民、NPO法人等の団体が地元自治体（市町村）及び道路管理者（県・市町村）と合意書を交わして、道路の清掃活動や美化活動を行っています。

また、道路愛護団体の活動を奨励するため、活動が顕著であると認められる団体等にたいし表彰を行うなどしています。

===国道 289 号「甲子（かし）道路」全線開通===

国道 289 号は日本海から太平洋までつながる幹線道路であるが、福島県の下郷町（しもごうまち）と西郷村（にしごうむら）の間は、自動車通行が不能であった。

福島県が交通不能区間の解消を目的に、昭和 50 年度から進めてきた「甲子（かし）道路」が 9 月 21 日に全線開通。今後は、年間を通して安全・安心な通行が可能となるほか、広域ネットワークが形成されたことにより、広域的な交流、物流がより一層、促進されることが期待される。

===橋りょう長寿命化修繕計画===

福島県が管理する橋りょうは、現在約 4,500 橋あり、建設後 50 年を経過するものは約 500 橋で全体の概ね 1 割を占める。これが 20 年後には 6 割近くに達する見通しである。今後は、修繕等のコスト縮減への取り組みが不可欠である。そこで、長寿命化修繕計画を策定し、修繕や更新を計画的に行うこととしている。

>

>

●福島県市町村の取組み

◇安全安心なまちづくり事業の概要（福島市）

事業目的：

地域生活の安全安心を確保する為、地域住民の提案に基づく基盤整備を行う。

事業の特徴：

本事業は、平成 16 年度から自治振興協議会を中心とした地元の話し合いにより箇所付けした事業を実施して、身近な生活基盤を整備するとともに、地域分権の時代を迎えた中で、事業を通じて「住民自治意識の醸成」を図ることとした事業。

具体的には、一般事業は行政側が全市的な観点から優先順位をつけて事業を行っていくが、当該事業は、地元（住民）の視点を重視し、生活に密着した生活基盤整備を住民自ら掘り起こし、市の視点と整合性を取りながら実施していく事業としている。

るところに特徴がある。

◇「郡山市道路境界確定・復元要綱」策定について（郡山市）

郡山市では、道路境界立会いについて平成19年4月から「郡山市道路境界確定・復元要綱」の運用を開始しているため、その取組事例を紹介いたします。

◇会津地域の冬期間における道路交通円滑化の取り組み（会津若松市）

会津地域内の国、県、市町村及び関係機関の26団体で構成する「冬期道路交通円滑化連絡協議会」を設置し、除雪計画等の情報を共有し、冬期間における安全な道路交通の確保に努めている。

◇合併都市の変貌と道路管理（いわき市）

いわき市は、「昭和の大合併」以降に新産業都市指定を契機として、5市4町5村の14市町村が合併した広域多核都市である。産業・地形・気候・気質の異なる各地域の融合には、40年の歳月を要している。地域の垣根を取り払ったのは道路交通網の整備

◇相馬市における道路管理について（相馬市）

前段は相馬市の位置的關係及び主な産業の紹介で次に観光行事について説明しております。最後に現在の市を取り巻く状況、今後の市の動向についての所見です。後段は市道の状況と現在の管理体制及び管理状況について述べています。管理については特色のある事項について記述しています。

◇雪と共存する町づくりをめざして（只見町）

多雪地帯の自然環境から生まれる生態系を活かした地域づくりの考え方や雪国で安心して生活できる道路整備の一例を紹介いたします。

編集後記 ホッとひと息

私たち(財)道路新産業開発機構は東京都中央区の～築地～にあります。
～築地～と聞くと、みなさんはどんなイメージをお持ちですか？
まず第一に浮かぶのは、市場ではないでしょうか。

「職場は築地です。」と言うとと多くの方は「え？まぐろを売っているの？」と……。

もちろん 築地市場と言えば「東京の台所」ですので、市場が街のシンボルであることは間違いのないのですが……。そこで今回は～築地～についてほんの少しご紹介したいと思います。

市場の方々は、夜中から朝にかけて仕事をしています。私達が夜帰宅の途に着く頃に仕事が始まり、朝出勤する頃にはほとんど仕事を終えています。日中に活動する人と夜中に活動する人がハッキリと別れているので、街全体がゆったりとしており、東京の混雑からは少しかけ離れている印象と言えます。そして、街中には当たり前のようにターレ（ターレット式構内運搬車）が走り回っています。このターレという乗り物、市場内でお魚を運ぶ運搬車ですが、時には普通車と同じ様に一般道を走ります。速度が非常にゆっくりな為「築地の道路ではターレが最優先だからなあ～」と嘆くタクシー運転手さんもいるとかいないとか……。これは東京の中でも他の街にはない面白い光景といえるのではないのでしょうか。

また、東京大空襲の際、戦火を逃れた事もあり今でも古い街並みが残っています。私が子供の頃は、東京都心部に住む人々は庭がない家も多く、自宅前に発砲スチロールを並べそこで植木を育て、それを自慢し合う事でご近所さんとのコミュニケーションを図るとというのが日常でした。最近ではそんな光景も少なくなりましたが、ここ築地では昔から住み続けている方も多く、今でも家の前に発砲スチロールで植木を育て井戸端会議をする姿を見ることができます。

前述のように、築地は市場の街・下町というそのイメージから都心部からは少し遠い場所にあるのでは？と思う方も多いと思います。実は意外にも「オシャレな街～銀座～」からとても近く、歩いて10分ほどの距離にあります。そこで観光で訪れる方はこんな観光コースはいかがですか？

早朝から築地市場にて「せり」を見学 場外市場で海産物を値切る・味わう
至福の時を体験 晴海通りをテクテク 築地川銀座公園（激しく車が行きかう大通り沿いにあり、日本で初めてのセラピードッグ「チロリ」の銅像があります）にてひとやすみ 東銀座の歌舞伎座へ 銀座でお買い物三昧

朝早いのはちょっと……という方には、築地の夜を。

聖路加タワー47階にある展望室は無料で入る事ができます。そこから見る東京の夜景は見事で六本木ヒルズにも負けない優雅さを誇っています。さらに

隅田川沿いの遊歩道からは、築地市場の船着場の灯りが・・・その灯り越しに見える東京タワーや汐留のビル群は一見の価値があり、ガイドブックにも載っていないデートコースの穴場と言えるでしょう。

～大都会の喧騒と古くから受け継がれてきた下町情緒あふれる人情の街～この混在感こそが、築地の一番の面白さではないでしょうか。

皆さんもこの醍醐味を味わいに～築地～へいらっしやいませんか？（K）



ターレ（ターレット式構内運搬車）



玄関前の植木



築地みこし



昔ながらの街並み